

三多摩 26 市のおもだった都市・・・八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、日野市、狛江市などには、『**予算特別委員会**』があります。市が提案した予算を『**会派ごとに代表質問**』をし、議論をしています。でも町田市にはありません！

その年度の第一回目の議会が3月議会です。市長が提案した当初予算案に対して、議論し、決定する、重要な3月議会

「**なぜ、町田市議会には、予算特別委員会がないの？**」

「**どうして、町田市議会は会派があるのに、代表質問しないの？**」

町田市議会では、会派ごとに議員一人あたり月 6 万円の政務調査費がついている。たとえば、8 人の会派は月 42 万、6 人の会派は 36 万、5 人の会派は 30 万というふうに・・・
会派を組んでいる以上、一年の予算案に対して、会派としての意見をまとめ、議論するのは当然の事ではないでしょうか？（もちろん、ばらばらの寄り合い所帯の所では、代表質問ができないでしょうが・・・）

代表質問の時間は当然会派の人数にあわせて・・・国会と同じでいいと思います
一般質問も数多くすればいいという問題ではありません。質問のダブリ、たくさん質問して、中途半端、そんなことのないように、しっかり議論してほしい。質問内容のレベルをぐんとあげてほしい！！

議会で議決した内容は、議員みずから市民に説明してほしい！

議会には、執行責任があることを、市民ですら、忘れていたこの現実・・・
議会改革を本気で進める気なら、予算特別委員会や代表質問制はあるのが常識です。
他市では議会活動のあり方を定める**議会基本条令の制定**や**議会報告会の開催**など、さらなる取り組みが始まっています。

草の根ホームページ

<http://www.machida-kusanone.com/index.htm>

災いは、忘れないうちにやってくる！！無関心が問われる？

*被災者の「夢であってくれれば良いのに」という悲痛な言葉に、心底、夢であってほしいと思ってしまうほど悲惨な災いが日本を覆っている。

ひとつは自然の猛威、ひとつは人間が作り出した猛威である。同時に降りかかった二つの猛威の前で、人々は平静を装いながらも、絶望と不安の入り混じった思いの中で日々を過ごしている。

*被災地からは、地元の自治体職員や、民間人、住民の献身的な救援活動は伝えられるものの、国や国会議員の姿がなかなか見えてこない。国交省・厚労省・農水省・総務省・経産省等の各大臣の会見を聞いていても、国が一丸となって取り組もうとする緊迫感、必死さ、被災者の痛みを思いやる心が伝わってこない。安全な議員世界にどっぷりつきり、各省から上がってきた内容を口先だけで伝えている様に見える。選挙の時には、国民の安心安全、国の活性化云々を声高に語っていた議員達も、いったん当選してしまうと、議員世界の政党・会派の勢力争いや、自らの保身にかまけ、国民の願い、痛み、苦しみが見えなくなっているのだろうか。二重苦にあえぐ国民には、議員への不信感が三重苦となって覆いかぶさっている様な心境である。

*ちなみに町田市議会はどうだろうか。新聞で、FC町田ゼルビアを応援している人達が、5万筆の署名を添えて、市議会議員全員で応援をして欲しいという請願を提出したところ、何と、継続審議になったと聞いて驚いた。私達「草の根」の請願同様、こんな請願を先送りにする市民の代表とは一体何様なのだろうか。暇で議会の仕事がないのだろうかと思いを傾げたくなる。世界各地で大きな災害が続いている。大災害の起きるサイクルは確実に短くなっている。町田市もいつ何時大災害に見舞われるか分からない。緊張感を持って職務に当たって頂きたいものである。

*ごみの焼却は？焼却炉は？地元市民として無関心ではられない。東日本大震災後の3月24日、リサイクル文化センターで開かれた地域懇話会に参加してみたところ、説明をする担当職員の数より市民の数が少ないのにはがっかりした。地震の際、緊急停止した炉を無事に再稼働させるまでのご苦労の中、沢山の資料を用意して下さったのにとすると、市民の関心の低さが気にかかる。無関心こそ最大の敵、と言った人がいたが、日頃無関心でいながら、いざ我が身に降りかかる事態が起きるとパニックになる。

*チェルノブイリの原発事故のおり、日本でも野菜から放射能が検出され、イタリアのパスタ、乳製品への不安やらで、パニックになったことがあった。何を食べて良いのか分からない、専門家から正しい情報を聞きたいと、故高木仁三郎氏(原子力資料情報室前代表)をお招きし、勉強会を開いたことがあった。少々難解な原発のお話の後、主婦の、「子供に何を食べさせたら良いのでしょうか」の質問に、高木氏は苦笑されながら、「いろいろ食べることでですね」と穏やかに言われたことを、昨日の事のように思い出す。その後、主婦達から二度と不安の声を聞くことはなかった。信頼できる人の言葉の影響力の凄さを実感したひとこまであった。

F.T

草の根・ホームページひとこと・ふたこと・みことより